

## 行事

### 1. ORBIT 2006

欧州で最も知られた、バイオマス関係の国際会議の一つである、ORBITの第5回国際会議がドイツのワイマールで2006年9月13日から15日まで、開催された。

当会議では38カ国より参加の230名の方が講演され、多くの学識経験者、政策立案者、事業家、一般市民が参加、バイオマスに関する最新の情報と知識を得る事が出来た。

本会議の会長を務めた、ワーナービドリグマイヤー教授は、コンポストと言う、在来の課題と嫌気性発酵と言う新しい課題が、新しい技術と生産物の品質面から、同時に討議されたことは意義深いと講評された。

JORAは本会議のサポーターの一員として、論文募集に協力し、6名の講演者を派遣した。

### 2. バイオマスマーク

農水省は2002年12月閣議決定したバイオマス日本総合戦略に基づき、バイオマスの利活用を推進しているが、バイオマスマーク事業を立ち上げた。

JORAは、農水省の後援を得て、バイオマスマークを確立し、昨年8月より認証事業を開始している。

バイオマスマークは、バイオマスを部分的に又は全部使った商品に表示され、消費者がこの表示を見て、この商品がバイオマスを使った商品だと認識することで、バイオマスの消費が増えることを目指している。

### 3. 第3回バイオマス・アジア・ワークショップ

このワークショップは農水省他の団体の主宰により、11月15-16日、東京の国連大学と筑波の国際会議場で開催された。

2006年3月、バイオマス日本総合戦略は見直され、アジア地域の環境、エネルギーのパートナーシップの強化が謳われ、この目的に対応する為に、11カ国の政策責任者、学者、研究者と、日本の政府関係者、民間、学会の代表者が講演を行い、パネル討論会が持たれた。

このワークショップには、約450名の出席があり、盛況であった。

ANORの参加メンバー国からは、カンボジア、中国、インドネシア、マレーシア、フィリピン、韓国、タイ、ベトナムが参加された。

JORAはポスターセッションに参加した。タイトルはバイオマスマークの概要であった。

(日本に於ける、バイオマス商品の認証事業)

第4回のワークショップは2007年10月か11月にマレーシアで開催される。

ウェブサイトは [www.simul-conf.com/biomass/en/index.html](http://www.simul-conf.com/biomass/en/index.html)

である。

情報

1 . 日本の食品廃棄物のリサイクル状況

翻訳省略

2 . アースポリシー研究所よりの情報

JORA は同研究所より、環境関連の情報サービスをイーメールで定期的に受けており(無料)、今回は2つの論文を添付する。一つはレスター・ブラウン博士による、{ 米国の自動車燃料向け穀物需要の急増が、国際的な食料の安定供給と政治的安定の脅威になる。及びジョセフ・エー・フローレンスによる、{ 世界の炭素の放出量は2005年史上最大であった } である。

3 . 米国前副大統領アルゴアの著書{ 不都合な真実 }と米国国立気象研究所 ( NCAR ) の警告

ゴア氏は地球温暖化の問題は、今や、政治問題と言うよりも、文明が直面している最大の道徳問題と主張している。

本著書は、デニス・グッゲンハイム監督に依って映画化されている。

NCAR は、米国立の科学研究所であるが、2006年12月12日発行のレポートで{ 北極海の氷は急激に減少しており、2040年の夏場には、殆ど氷の無い海になる } と警告している。